HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	制定記念講演会開会のあいさつ
Author(s)	寶金, 清博
Description	北海道大学ダイバーシティ＆インクルージョン推進宣言制定記念講演会 開会式. 2021年12月10日, 北海道大学学術交流会館およびオンライン. 札幌市
Relation	(2022). 北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言制定記念講演会記録集 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
Issue Date	2022-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85725
Type	lecture
File Information	00Houkin.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

制定記念講演会　開会のあいさつ
北海道大学総長　寶金 清博

北海道大学総長の寶金でございます。まず、この宣言に至るまでの経過をご説明いたします。私どもは、昨年の 10 月 1 日から新しい執行部として、継続性のある大学のミッションと理念を実現するために発足しています。したがって、この推進宣言については突然決まったことではなく、まず、大学憲章を決めましょうということで議論してきました。その中で、行動規範というものを作りました。これはいろいろな基本的な行動のコードを作ろうということで、半年ぐらいの期間をかけてかなり熱心に議論し、作成しました。そしてその行動規範の中に、「私達は一人一人の人権と人格を尊重すると共に、あらゆる差別やハラスメントを許さず、多様な個性と能力が存分に発揮できる学修、研究及び就業の場を実現します」と明記いたしました。

そこで執行部として議論した結果、「やはりこの部分はきちんと取り出して書いた方が良いのではないか」ということで、この執行部が始まる頃から存在した、多様性、あるいは包摂的な社会に対する大学としての考え方について、一度まとめる必要があるだろうということになりました。そこで矢野先生、長谷山副学長をはじめとする方々に議論いただき、今回 12 月 1 日にダイバーシティ＆インクルージョン推進宣言を発出しました。その翌日には記者会見も行い、さまざまなご質問をいただきました。大変励みになる、建設的な質問もありました。

この推進宣言はそれほど長い文章ではありませんが、私達が非常に重要視したのは「誰一人取り残さない」いわゆる SDGs と関連付けたことです。これまでも各大学がこのような宣言を出していますが、2000 年から 2015 年ぐらいの時期まではどちらかというと男女共同参画に主力を置いた内容でした。もちろん今回の私達の宣言ではジェンダーを含む男女共同参画にも言及していますし、それは依然として中心的なところもありますが、それ以外のさまざまな多様

性に関して広く言及しております。SDGs から始まり、我々はもっと広く多様性を考えていきましょうという前提で議論を行い、そして英文でもそれらはしっかり書かれています。今後、場合によっては、多くの大学が我々の宣言を参考にしていただき、あるいはいろいろなご意見をいただけるようなたたき台になったのではないのかと思っています。

記者会見ではさまざまなご意見をいただきました。そこでは北海道大学の長い歴史を踏まえて説明させていただきました。一つはキャンパスの多様性。そして開学時から外国人が教員としてマジョリティであったということ。最近は男女共同参画という点でむしろ遅れてしまったこと。それからさまざまな民族、国籍の方、そして国内においても非常に多様な出身地の方で構成されているという点です。東京大学では 5 割以上が関東圏の出身、関西の大学では 6 ～ 7 割は近畿圏の出身者である事に対し、本学において北海道出身者は、これは良いか悪いかいろいろな議論があるところではありますが、3 割しかいない。逆に言うと日本の各地から学生さんが集まっている状況です。

また、なぜこの時期に宣言を発出したのかという質問もありました。これは特別な理由はないのですが、先に述べたような過程を経て、この 1 年余りをかけて煮詰めてきた議論が成熟して宣言になったということです。私は記者会見では「立ち止まり」という言葉を使いましたが、150 年になる長い歴史の中で、やはりターニングポイントというのはあると思います。男女共同参画、ダイバーシティの観点で、この 2021 年 12 月 1 日からの 6 か月間のキャンペーン、この制定記念講演会も本日から 1 ヶ月で 4 回行われますが、そういうことも含めて立ち止まりの機会として考えようというふうに設定しています。

私自身、これは一人一人が考えなくてはいけないことだと思っています。基本的にダイバーシティ＆インクルージョン推進宣言は、自分が自分らしく生きられるかどうかということだと思いますし、逆に言うと自分らしく生きられない人がいるのだということを我々が自覚することだと思っています。全ての人々がある種の多様性を持っていて、一人一人が実はマジョリティではないのが自然な姿かもしれません。そのような考え方が正しいかどうかは、この 4 回の講演会で、ぜひ自分自身で検証していきたいと思っています。

長くなりましたが、この 4 回の講演会どれも素晴らしく、全部拝聴するつもりです。ぜひ、まず今日の「大学と民族」というところから始まる演者の皆様には、熱量のある議論、そして北海道大学全体がこの件に関して深く考えるためのトリガーを引いていただきたいと思っています。私もその中でしっかり勉強させていただきます。ダイバーシティ＆インクルージョンはこの 6 か月を契機として、北海道大学でこれから育てていくものだと思っていますので、ぜひ活発にご議論いただきたいと思います。そして、北海道大学が持っている強さ、先に述べたダイバーシティ＆インクルージョンに関する歴史的なことが強みとなって、日本の大学あるいは世界の大学の中でリーダーシップがとれるような大学になっていきたいと思っております。

最後は少し妄想じみたことを申し上げましたが、ぜひ北海道大学ダイバーシティ＆インクルージョン推進宣言、そしてこの制定記念講演会を経て、大きく成長していきたいと思います。よろしくお願いいたします。